

「ビキニデー in 高知」実行委員会 核被災の悲劇 伝えたい



1954年に米軍によるビキニ環礁の水爆実験で被ばくした元マグロ船員や遺族の救済を訴えようと、昨年6～8日に高知市で春に続いて「ビキニデー in 高知」を聞く。事件を風化させず、次代へと5月実施に向け準備している。

実行委員会は県内で平和活動に取り組む個人・団体で組織。昨年3月には啓発イベントとして、被災船員への聞き取り調査の報告や写真展などを初開催した。

「息の長い活動には世代継承が必須」と、事務局長の岡村啓佐さん

平和資料館・草の家 戦禍物語る資料後世に



高知市にある平和資料館「草の家」は1989年の開館以来、戦争遺族らから数多くの遺品や資料の寄贈を受けてきた。メンバーは「戦争の悲惨さを生々しく物語る。きちんと保管して後世に伝えたい」と、昨年4月から資料の整理・保管を進めている。

素焼きの日本兵の顔入所蔵点数は、ざっと千ほど。倉庫に眠っているものも多い。もんで、整理作業に励む。や防災頭巾、遺言状、高知大空襲で投下された焼夷弾、弾の貫通痕が残る水筒。中には見張りの偽装に並べられたという、全国的にも珍しい